

第33回運営委員会 4月19日(水) 18:30~21:40

- ◆ 会 場：柏崎原子力広報センター 2F 研修室
 - ◆ 出席委員：新野・渡辺（丈）・石田・川口・久我・佐藤・三宮・武本・渡辺（五）委員…9名
 - ◆ オブザーバー：保安検査官事務所／金城所長 地域担当官事務所／早川所長
東京電力／長野室長・西田部長 柏崎市／布施課長
 - ◆ 事務局：広報センター／押見事務局長・木村主査 柏崎市／藤巻主任
-

オブザーバーとの懇談

地域の会というのは基本的に一般市民の目線ということだったはずが、数字的な説明等で深く入りすぎて、ボリューム的にも大きくなりすぎる傾向がある。

発言したくてもなかなかしにくい状況もあり、会の進め方や問題点についてオブザーバーを交えて話す機会をもつこととした。

➤ 視点や報道について

【委員意見】

- ・ 視点に関する意見というのは来ているのか。→ 最近は来っていない。
- ・ 情報誌に関しては全部の意見をのせるわけにはいかない。新聞報道などで、個人の意見として載っていても、会の意見としてとられがち。
- ・ マスコミとのコミュニケーションも必要かと。信頼関係がないと誤解を受ける場合もあるのでは。
- ・ 視点を見た人に、ここ最近、反対をする側の意見の量が大きくなってきているように思うと言われた。いろんな意見を持った委員がいるというあたりが、誌面に現れてくれるといいのだが。
- ・ この会の目的が透明性を確保するということであるので、質問するしかない。この辺をどうしたらいいのが難しい。
- ・ 第3のPR誌というような批判を受ける。

➤ 質問と説明について

【委員意見】

- ・ 1対1のやりとりが多くなるのは問題。
- ・ 東京電力さんには、もっと簡潔に一般住民にわかるような説明をしてもらいたい。
- ・ 説明を段階で分けてほしい。
- ・ 専門的などころに最初から入ってしまう傾向があるので、考えてほしい。
- ・ 国や東電の説明だけで終わってしまうのは問題がある。説明に対していろんな意見があったということでない、原発の宣伝誌になってしまう。
- ・ 国や東電の説明が骨になっていて、そこに若干の意見が出てくるのが今の状況。このままでいいのかという思いはある。

- ・ わからないなりの質問や意見が貴重だと思うが、実際は出にくい。
- ・ 委員全員が同じレベルでないというのが難しいところ。
- ・ それでも、前よりは、いろんな意見が出るようになったように思う。
- ・ 会としては意見できないわけで、国や東電の説明は最小限にしてもらって、それについての委員の意見交換に時間をとるべき。
- ・ 委員同士のディスカッションが必要。
- ・ 事象に対して、結論が出るのにすごく時間がかかりすぎるのも問題。
- ・ 質問する人は疑問の部分をするわけで、立場が反対賛成どうであれ、どうしても国や東電に質問をしてしまう。このことが一方的な状況に捉えられがち。
- ・ 結論が出ないまま終わってしまい、出たときに感想を述べるといった状況。
- ・ 説明の内容がわからないという発言でもいいからしてもらいたい意向を伝え、何故発言できないのかとか、こうしてもらえばもっと発言できるとかといった議論が委員同士でできるといいのだが。
- ・ 説明はどれくらいの量というように、決めることはできないだろうか。
- ・ 東電の説明も、永遠と講義を受けているようなものになりがちなので、もう少しなんとかならないものか。
- ・ あたりさわりのない説明よりも、ここまでしか答えられないというような回答でもいいのではないか。答えられないものに関しては、はっきり次回とかいうように断ってもらってもよいのでは。
- ・ 一人一人に意見を求めるようなスタイルを時々やったほうがいい。
- ・ 透明性を確保する会としての使命といったあたりを委員がどう思っているのかを聞いてみたい気がする。
- ・ 専門的な質問に関して、分からない人に説明しようとするれば、どこかをはしょらなければならない。専門的なものに関しては個別にやってもらいたい。オールマイティーにわかる説明をやってもらいたい。
- ・ 専門的なものに対しての質問は、文書で返してもらったほうがいい。
- ・ 今日の議論を整理して区切りをつける人が必要。どんな意見があったのかの整理があったほうがいい。終わった事項と積み残しの事項がはっきりする。

【オガザバー意見】

- ・ 説明に関しては、なるべく A4 用紙 1 枚におさまるよう、キーワードが漏れないようにする工夫はしているのだが。
- ・ 簡潔にという点は心がけたいと思う。原因と対策の出ていない案件については、はぎれの悪い説明となる。事象の報告はするが、結論が出てからの議論にしてもらいたい。
- ・ 時間を決めてもらって、消化しきれないものに関しては文書でもらい、次回に回答という形をとるのもいいのではないか。
- ・ 説明側は、結論、言いたいことを先に出してもらい、時間で一旦切って、質問が出たところで、説明という形をとってもらいたい。
- ・ 最初に決まった時間を説明にもらえるのであれば、最後 5 分くらい論点整理をする時間をも

らいたい。

➤ 制御棒、再循環配管の問題について

【委員意見】

- ・ 事象が起きて、回答が出るまでに時間がかかるのだが、回答が出るまでの間は、稼働しているわけで、今運転しているのは何故安全なのかという説明をまずしてもらいたい。その事象が何故起こったのかというのは、その後にあればいいこと。問題だと言いながら動いているあたりを、みんな不安に思っている。

↓

【オブザーバー意見】

- ・ 法律上の問題であって、事故の事象が判明しない限り、国側として止めるという判断はできない。
- ・ 逆に言うと、技術基準に適合していないということが分かれば止める。基準から逸脱しているという判断をすれば止める。
- ・ 運転の間にも逸脱する可能性があるものに関しては、マニュアルにも、通常の運転より逸脱しているという基準があるので、もしその基準にひっかかるものがあれば止める。
- ・ 何時間以内に逸脱した事象を回復できなければ止めるといったマニュアルもある。

↓

【委員意見】

- ・ そういう話をしてもらえればわかりやすいし、一般的。
- ・ 一般市民というのは、運転を止めないのは、企業が止めると収入につながらないから、止めないくらいにしか考えない。何故そういった説明をしてくれないのか。
- ・ 先回の議論だと、そういったものを飛び越えた議論に入ってしまった、委員のほとんどは今のような説明だと議論にも入ってこれたのではないか。

↓

【オブザーバー意見】

- ・ 運転中のものに起こっている事象、停止しているものに関しての事象というように、仕分けしての説明を指定してもらえれば、それなりに対処はできると思う。

➤ 耐震の問題について

【オブザーバーより】

- ・ すべてが順調にいても7月上旬くらいの報告になる。地震の問題については1回の定例会では無理なのではないか。議論の前に勉強会等の場を設けてもらいたい。新しい指針を聞いても今の指針がどうなのかわからないとよくわからないと思う。
- ・ 指針が出てからでないとしゃべれないと思う。
- ・ 途中経過的な報告はしていきたい。
- ・ 指針が出て、即議論が乾かないと思うので、個別対応になると思うので、やはり半年以上かかるのではないか。

➤ 委員側の問題について

【委員意見】

- ・ 同じ質問は控えてもらいたい。
- ・ 一人で3点とか質問するのではなく、重要な点を1点にしぼるとかして、多くの人に質問の時間を持ってもらえる必要があるのでは。

【オブザーバー意見】

- ・ 質問をするとき、質問のある人は名札を立てて、意思表示をするといった例もある。どれくらいの方が質問があるのかということも目で見てわかる。

➤ 流量計の問題について

【東電より】

- ・ 次回説明させてもらいたいが。

【委員意見】

- ・ 流量計に関する資料を出してもらい、質問があったら答えるという形でいいのではないか。

第35回定例会（5月10日）7時から

➤ 電磁波の報告

- ・ 電磁波については疑いがあるから調べてもらうのではなく、武本さんの提案に対して、調べてもらえるものであるなら、調べてもらいたいという意味合いなので、その辺の誤解がないように伝える必要がある。

➤ 再循環配管の説明を事業者から。保安院の妥当性確認の報告。

- ・ 再循環配管について、報告書はもうできている状態なので、事前に配布して質問を受けていて、次回で質問に答えるような形にしてもいいのではないか。

第36回定例会について（6月7日）7時から

保安院：幹部がこちらに来る機会がある。以前会長から、幹部が来る際には地域の会へも顔を出して欲しい旨要望があったので、幹部の参加を考えている。通常の議論を見てももらったかどうかと考えている。

5年間の保安院の総括した資料もそろえているので、事前に配布できる。

【委員意見】

- ・ 参加してもらうことはいいのではないか。
- ・ 日頃聞いてみたいことなどの、簡単なやりとりの時間があってもいいのではないか。
- ・ 2年前と今の保安院の意思表示、約束したものに対して、間違いなくやっているというあたりも聞きたい。
- ・ 東電問題があったとき、保安院は常駐していたのに何故わからなかったのかというあたりの話も聞けたらいいと思う。わからない人は東電と保安院がなあなあ仲なんじゃないかと思いがち。
- ・ 住民が普段使っているような言葉の範疇での説明を心がけてもらいたい。

【決定事項】

- ・ 保安院の方には、時間をあらかじめ決めて話してもらう。
- ・ 5月の定例会時に資料を事前配布して、質問意見を出してもらう。(5月21日くらいまでに)
- ・ 5月25日くらいまでに金城所長のほうに質問意見の集約を提出。
- ・ 金城所長に提出前に運営委員会を開催。(5月24日くらい)

その他

- NHKからの取材の申し込みがあり、保留中。

プルサーマルをやる前に、地域に情報伝達ができているのか、地域は受け入れるものができるのかとか、というあたりを取材したいとのこと。プルサーマルに賛成反対を唱える会ではないということは伝えてあるが。プルサーマルだけをテーマにしているのを取材ということではないようなのだが。

↓

- ・ プルサーマルのことについてだったら、会として言うことはないと思う。意向には添えないということで断ってもいいのではないか。
- ・ 今時点で議論するものがない。
- ・ 定例会に取材にくる自体は公開なので、かまわないと思うが。
- ・ ほんの一部分をとって、会の総意のような捉えられ方をされるのは困る。
- ・ プルサーマルがメインテーマの構成の一部に使われるようであれば、誤解をまねくし、会としてプルサーマルに踏み込むタイミングでもないの、ということで話したほうがいいのか。

- 視点について

- 発電所を巡る主な動きと定例会以降の動きの中で、重複している部分があるが、どうするか。

↓

- ・ 透明性ということ言えば、どちらも記載してもいいのではないか。
- ・ 中面のほうが一般の人は見やすいのではないか。
- ・ 重複しているのであれば、省いてもいいのではないか。

【決定事項】

現状維持で。

- 視点の発行日の関係で、次回等の定例会の案内を掲載できない日が生じるがどうするか。

↓

- ・ 開催日時ではなく、原則第1水曜日というような記載の仕方ではだめか。
- ・ 傍聴に来てもらうために、掲載をはじめたのだから、開催日時は載せたほうがいい。

【決定事項】

- ・ 日程と場所だけは載せるようにして、なるべく落ちがないようにする。
- ・ 編集後記担当は、川口委員。

■ 発電所の現場視察について



- 6月～8月くらいまでに視察内容を検討しておく必要がないか。
- 運転訓練施設の見学もできるが。(東電より)
- 保安院の検査にからませて、見せてもらえるようなところはないか。
- 制御棒、再循環については小さい問題ではないはず。会が現場に行って制御棒くらい見ておく必要があるのでは。本物は見れないにしても。通常の定例会会場で説明を聞くのではなく、現場で聞く必要もあるのではないか。
- 不必要に入る必要はないかもしれないが、年に一度は現場視察をする必要性もあるように思うが。
- 管理区域は被ばくのこともあるので、要望が出たうえで、東電に検討してもらってもいいのではないか。(保安院より)
- 時期の問題もあるが、制御棒の定例の試験もあるので、制御棒の健全性をどのように確認しているかというあたりの視察でもいいのではないか。(保安院より)
- 見せてもらえるもののメニューを出してもらい、提案してもらえればいいのではないか。